

令和5年度
近江八幡市
生涯学習社会づくり推進計画
進捗管理報告書

令和4年6月
近江八幡市教育委員会事務局 生涯学習課

『近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画』進捗管理のイメージ図

○「近江八幡市生涯学習社会づくり構想」および「実施計画」の改訂経過

- | | |
|----------------------------|-----------|
| ①「近江八幡市生涯学習社会づくり構想」 | 平成 4年3月策定 |
| ②「近江八幡市生涯学習社会づくり構想」 | 平成15年3月改訂 |
| ③「近江八幡市生涯学習推進実施計画」 | 平成16年3月策定 |
| ④「近江八幡市生涯学習社会づくり構想」 | 平成21年3月改訂 |
| ⑤「近江八幡市生涯学習推進実施計画」 | 平成22年3月改訂 |
| ⑥「近江八幡市生涯学習社会づくり構想・推進実施計画」 | 平成28年3月改訂 |
| ⑦「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」 | 令和 4年6月改訂 |



『近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画』の進捗管理

1. 進捗管理の目的

平成28年3月『近江八幡市生涯学習社会づくり構想』（以下「構想」）を策定するとともに、「構想の」に掲げる「ふるさとへの愛着と誇りから、学びが生かされつながる楽しみが創る、元気なまち近江八幡 ～郷土愛が紡ぐ近江八幡の生涯学習社会～」という理念を実現するために、各部局の社会教育・生涯学習関連事業（以下、個別事業）を体系化し、生涯学習・社会教育政策を総合的・体系的に推進するため『近江八幡市生涯学習推進実施計画』（以下「実施計画」）を策定した。

この「構想」の理念の実現を図るため、「実施計画」に掲げる個別事業の進捗管理を中心に、生涯学習・社会教育推進のための施策を総合的に展開するとともに、関係各部局間の連携・調整を図り、効率的・体系的に施策展開を推進する。

2. 進捗管理の手法

- (1) 「実施計画」に掲げる実践項目別の関係所属の個別事業の進捗状況を年度ごとに調査する。
- (2) 「実施計画」の個別事業の成果と課題、目標達成状況を把握する。
- (3) 進捗管理を通して生涯学習課と各所属が情報を共有することにより、連携を密にし、各所属において特色を生かした生涯学習・社会教育政策が効率的・体系的に推進されるよう支援する。
- (4) 社会の変化に伴う新しい課題や重要な課題が生じた場合は、必要に応じて「実施計画」に追加する。
- (5) 目標達成・終了した事業については、「実施計画」から削除する。

3. 進捗管理期間

令和4年4月～令和8年3月

※年度ごとに進捗管理を行う。

※「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」は、「近江八幡市教育振興基本計画」の計画終了年度を目標年度としている。

4. 期待成果

- (1) 生涯学習課が各所属の生涯学習・社会教育推進事業の進捗状況を把握することで体系的・効率的に社会教育・生涯学習事業を推進する。
- (2) 各所属の類似事業の一本化による事業の合理化や、関連事業の連携による事業の相乗効果の向上を図る。
- (3) 年度毎に進捗管理を行うことにより、構想の目標達成状況を把握し、次年度以降の生涯学習・社会教育事業の改善を図る。

令和5年度 生涯学習社会づくり推進計画事業リスト(実践項目別)						
実践項目の目標	施策の方向	所属部	番号	所属課	事業名	
(1) 情報の充実 生涯学習	①情報提供の充実・共有	教育委員会	1	図書館	読書活動推進事業	
		教育委員会	2	生涯学習課	生涯学習センター機能推進事業	
	②生涯学習の啓発	総合政策部	3	文化振興課	市史普及啓発事業	
		総合政策部	4	文化振興課	歴史文化資産普及啓発事業	
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む 学びの機会の提供	総合政策部	5	まちづくり協働課(まちづくり協議会)	文化・歴史講座	
		総合政策部	6	文化振興課	文化団体活動支援事業	
		総合政策部	7	文化振興課	お出かけ演奏会	
		総合政策部	8	文化振興課	キッズオルガン教室・パイプオルガン探検隊	
		市民部	9	環境課	環境保全対策事業	
		教育委員会	10	学校教育課	食農ファーム推進支援事業(田んぼのこ体験事業)	
		教育委員会	11	学校教育課	キャリア教育推進事業	
		教育委員会	12	図書館	近江八幡文学講座	
		教育委員会	13	生涯学習課(中央公民館)	地域課題等学習講座	
		教育委員会	14	生涯学習課(中央公民館)	中央公民館講座	
		教育委員会	15	生涯学習課(中央公民館)	市民大学講座	
		教育委員会	16	生涯学習課	学校支援地域本部事業	
		教育委員会	17	生涯学習課	人生伝承塾	
		教育委員会	18	生涯学習課	学校支援メニューフェア	
		②現代的課題を学ぶ 機会の提供	総合政策部	19	まちづくり協働課	国際交流事業
			総合政策部	20	まちづくり協働課	多文化共生事業
			市民部	21	人権・市民生活課	人権尊重のまちづくり市民講座
			市民部	22	人権・市民生活課	人権フェスティバル
	市民部		23	人権・市民生活課	人権尊重のまちづくり懇談会開催支援業務	
	福祉保険部		24	障がい福祉課(市民共生センター)	市民共生センター運営事業	
	産業経済部		25	商工振興課(近江八幡市企業内人権問題推進連絡会)	企業内人権問題研修推進事業	
	教育委員会		26	スポーツ課	スポーツ関係団体人権学習会	
	教育委員会		27	生涯学習課(中央公民館)	住みよいまちづくり推進講座	
	教育委員会		28	生涯学習課	社会教育関係団体人権学習会	
	教育委員会		29	生涯学習課(中央公民館)	地域課題等学習講座(No.13再掲)	
	教育委員会		30	生涯学習課(中央公民館)	中央公民館講座(No.14再掲)	
	③学びの要求の充足	総合政策部	31	文化振興課	安土文芸の郷公園指定管理事業	
		教育委員会	32	スポーツ課	総合型地域スポーツクラブ支援事業	
		教育委員会	33	スポーツ課	スポーツ教室	
		教育委員会	34	図書館	読書活動推進事業(No.1再掲)	
	(3) 生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	市長直轄組織	35	危機管理課	防災出前講座
			市民部	36	人権・市民生活課	人権教育啓発講師団養成事業
			子ども健康部	37	子育て支援課	子育てサポーター養成講座の実施
			教育委員会	38	生涯学習課(中央公民館)	住みよいまちづくり推進講座(No.27再掲)
②学びを生かしながら活動の支援		総合政策部	39	文化振興課	近江八幡市美術展覧会	
		市民部	40	人権・市民生活課	男女共同参画市民のつどい	
		子ども健康部	41	子育て支援課	親育ち・子育て応援ひろば事業(カンガルー広場)	
③人の交流によるまちの活性化		教育委員会	42	生涯学習課(中央公民館)	地域課題等学習講座(No.13再掲)	
		総合政策部	43	まちづくり協働課(まちづくり協議会)	各種スポーツ大会	
		総合政策部	44	まちづくり協働課(まちづくり協議会)	学区文化祭	
(4) 誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	教育委員会	45	図書館	リサイクル資料を活用した市民提案事業	
		教育委員会	46	スポーツ課	スポーツ大会	
		総合政策部	47	文化振興課	文化芸術振興基本計画推進業務	
		教育委員会	48	図書館	本のまち!動く図書館事業	
	②家庭教育の再生	教育委員会	49	スポーツ課	学校体育施設開放事業	
		教育委員会	50	生涯学習課	生涯学習推進実施計画進捗管理	
		総合政策部	51	文化振興課	子ども文化芸術賞	
		子ども健康部	52	子育て支援課	地域子育て支援拠点事業	
		教育委員会	53	図書館	おはなしメリーゴーランド	
		教育委員会	54	図書館	ブックスタート事業	
	教育委員会	55	図書館	就学前わくわく絵本体験事業		
	教育委員会	56	生涯学習課	家庭教育支援基盤形成事業		
	③地域・民間・学校教育の協働	関係各部	57	関係課(学校教育課、学校給食センター、幼児課、図書館、生涯学習課)	早寝・早起き・あさ(あいさつ)、し(食事)、ど(読書)、う(運動)推進事業	
		総合政策部	58	文化振興課	お出かけ演奏会(No.7再掲)	
		教育委員会	59	学校教育課	キャリア教育推進事業(No.11再掲)	
		教育委員会	60	生涯学習課	学校支援地域本部事業(No.16再掲)	
		教育委員会	61	生涯学習課	人生伝承塾(No.17再掲)	
		教育委員会	62	生涯学習課	学校支援メニューフェア(No.18再掲)	

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(1)生涯学習情報の充実	①情報提供の充実・共有	(1)①	1	読書活動推進事業	社会情勢に即した新鮮な情報や魅力ある資料の収集提供を行い、市民の生涯にわたる豊かな学びを支える。	図書館	①市民一人当たりの資料費 ②市民一人当たりの貸出冊数 ③月例コーナーからの貸出冊数	資料費の確保、蔵書の充実を図り、貸出につながる工夫を行う。 【令和5年度の目標値】 指標②③の前年度比100%以上	①市民一人当たりの資料費: 312円(R5年度:311円) ②市民一人当たりの貸出冊数: 6.6冊(R5年度:7.4冊) ③月例コーナーからの貸出冊数: 42,823冊(R5年度:44,662冊)	【事業概要】 ・近江八幡館、安土館の利用状況や特色を考慮した選書を行い、効果的な資料の購入を行う。また、コーナー展示により、新刊ではない資料を魅力的に見せることで貸出冊数の増加を図り、図書館利用の活性化を図る。 ・移動図書館車や市内コミュニティセンター等への配送サービス、沖島配本等を行い全域サービスの充実に努める。また、2台目の移動図書館車「はちっこぶっく号ミニ」の運行を開始する。 【成果】 ・移動図書館車の増設により、移動図書館車での貸出は増加したが、全体の貸出は減少した。 ・老朽度調査を実施。 ・市民一人当たりの資料費は312円(R5年度:311円) ・市民一人当たりの貸出冊数は6.6冊(R5年度:7.4冊) ・月例コーナーからの貸出冊数2月末までで、42,823冊(R5年度:44,662冊) ・移動図書館車の貸出冊数(団体貸出含む)は19,620冊(R5年度:16,368冊) ・配送サービスでの貸出冊数は2月末までで7,104冊。(R5年度:7,500冊) ・沖島配本での貸出冊数は347冊(R5年度:434冊)	3
(1)生涯学習情報の充実	①情報提供の充実・共有	(1)①	2	生涯学習センター機能推進事業	地域の生涯学習の推進支援に資する情報収集・調整・提供を行う。	生涯学習課	①マナビ通信の年2回発行 ②市ホームページによる生涯学習関連情報の公開更新4回以上	・引き続き広く市民へ情報が伝わるよう各種メディアの活用を工夫する。 ・マナビ通信の掲載範囲を市外の施設も含めて拡大し、市民が興味や関心が持てるよう工夫する。 【令和5年度の目標値】 ①マナビ通信の年2回発行 ②市ホームページによる生涯学習関連情報の公開更新をマナビ通信の発行に合わせて2回以上行う。	マナビ通信2回(上半期、下半期)発行。市HPでも公開。各コミュニティセンターや市関連施設に配布。	【事業概要】 ・マナビ通信は、市及び市関連施設の行事・講座・教室等の予定一覧を上半期と下半期に分けて作成して各コミセンや関係施設に配付し設置すると共に、市ホームページにも掲載した。 ・中央公民館事業の情報を広報、チラシ、ホームページ、ZTVなどを活用し、広く周知した。 【成果】 ・市及び市関連施設の行事・講座・教室等の情報を集約することで、生涯学習情報を求める市民へ情報提供することができた。 【課題】 ・完成したマナビ通信は、各施設や各課の配架コーナーに置いてあるが、たくさん残った状態で次号に更新している状況がある。HPを活用して、市民に情報提供を継続して行っていく。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(1)生涯学習情報の充実	②生涯学習の啓発	(1)②	3	市史普及啓発事業	本市の歴史が身近に感じられるように努める。	文化振興課	①情報発信 ②講座対応	【令和5年度の目標値】 ①『近江八幡の歴史』に係る媒体への情報発信(5件以上) ②外部との協力による講座等広報事業の3件以上の対応。	①12媒体24件 ②6講座に対応	【事業概要】 ①「広報おうみはちまん」の「ふるさと再発見」への記事掲載を含む12媒体24件の情報発信を行った。 ②ふるさと観光塾を含む6講座の依頼に対応した。 【成果】 それぞれ目標値を上回り、近江八幡市公式Instagramなど新たな媒体で情報発信を行うことができた。 【課題】 市史の頒布促進に伴う啓発を行う必要がある。	1
(1)生涯学習情報の充実	②生涯学習の啓発	(1)②	4	歴史文化資産普及啓発事業	市内の歴史文化資産に対する興味・関心や文化財を愛護する気運を高める。	文化振興課	①発掘調査成果、文化紹介等の報告会、展示の実施 ②VR安土城のテレビ放映、雑誌掲載への協力	【令和5年度の目標値】 ①2回 ②10件	①講演4回、5回配信 ②21件	【事業概要】 ①ふるさと学習として市内小中学校(八幡小、金田小、老蘇小、八幡東中)に講演を行った。また、市公式LINEにて、夏休みに市内文化財の紹介を行い普及啓発活動を行った。 ②VR安土城のテレビ放映、雑誌協力は21件行った。そのうち、安土城跡発掘調査に関する報道協力は6件対応した。 【成果】 ①②ともに目標値を上回ることができた。市内在住者に向けての普及啓発活動を中心に行い、夏休み企画では歴史探訪の情報を提供した。 【課題】 ①他の学校に講演をしていく必要がある。また、文化財の展示実行し、文化財触れもらう機会を増やすことも必要である。 ②事業の継続	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	5	文化・歴史講座	地域の文化や歴史の再発見や、地域課題や現代的課題を学び、住民の生涯学習の一層の充実・振興を図る。	まちづくり協働課 (まちづくり協議会)	(各まちづくり協議会で独自の評価を設定し実施)	【令和5年度の目標値】 ・広く住民周知や新たな取組等も検討するなど、常に検証・評価や見直しを行いながら、住民理解・意識醸成が高まるような事業を検討・実施していく。 ・オンラインでの参加申し込み、講座開催など持続可能な手法を用いた講座等の開催支援を行う。	・各学区まちづくり協議会が「ふるさと文化育成事業」を実施した。	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会が「ふるさと文化育成事業」として、文化講座、団体活動支援等を実施した。 【成果】 ・学区や地域が持つ資源(モノ・人材)を発掘・活用し、歴史文化の継承と学区民の意識醸成が図れた。 ・市民に生涯学習の機会を提供できた。 【課題】 ・地域の歴史的史跡を巡る事業等、各学区や地域で個性的な事業の実施が見られるものの、更なる検証や見直し工夫も必要。 ・事業の実施に向けて各団体への支援を行う必要がある。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の実況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	6	文化団体活動支援事業	市内の文化芸術団体の事業に対し補助金を交付し支援することで、地域での文化芸術活動の活性化を図る。	文化振興課	①市民団体文化活動に対する補助件数 ②まちづくり芸術振興補助金応募団体数	【令和5年度の目標値】 ①2件 ②5団体	① 2件 ② 6団体	【事業概要】 近江八幡市文化団体連合会に対し、活動事業補助金及びを交付した。 まちづくり芸術振興事業補助金は公募し、6件の応募があり、すべての事業を採択し、辞退のあった1件を除く5件に対して補助金を交付した。 【成果】 市民文化祭及び安土町地域自治区文化祭の開催をはじめ、研修会や、歴史講演会など、積極的に文化芸術事業を実施された。また、「文化のなかま」「塔映」の機関紙を発行された。 まちづくり芸術振興事業補助金は、事業を拡充したことにより、より幅広く、また規模の大きい事業に対しても補助を行うことができるなど、今までよりも多様な文化活動の推進につながった。 【課題】 近江八幡市文化団体連合会は旧市町それぞれの文化協会が独自の活動を続けており、組織や事業運営の完全な統合にはまだ時間を要する。 まちづくり芸術振興事業補助金は、予算額以上の補助金要望があり、今後の状況を踏まえ更なる拡充等を検討していく必要がある。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	7	お出かけ演奏会	市内各校・園所にプロの音楽家が出向き、安土桃山時代に伝わった音楽などを同時代の楽器と声楽で生演奏することにより、子どもに豊かな芸術体験と、地域の歴史文化を学ぶ機会を提供する。	文化振興課	実施小学校・園所数	【令和5年度の目標値】 ①10公演 ②「ふつう」以上＝勉強になった、やや勉強となったの回答率6割	①13校園所で15公演実施 ②やや勉強となった以上70.4%、ふつう以上89%の学習効果が得られた	【事業概要】 西洋音楽史を通してふるさと学習。16世紀に安土桃山時代に安土に渡来した楽器や音楽の歴史について、プロの演奏者による古楽器(声楽・フルート・オルガンのトリオ編成)演奏を通して、児童がふるさと学習できたり幼少期より本物の音楽に触れたりする機会を創出。地域や音楽への興味喚起がねらい。 【成果】 市内小学校及び保育所や幼稚園、こども園からの希望日時に合わせて、13校園所15公演を実施。公立園所すべてで、公演実施することができた。また、今年度の小学校対象公演では、文化財担当者も随行し歴史学習の充実を図った効果で、「勉強になった」の回答率において過去最高の結果を得ることができた。市文化振興条例に基づく文化振興基本計画(基本目標Ⅳ-基本施策1-具体的取り組み④文化芸術に接する機会の拡充)を遂行できた。 【課題】 未就学児に対し、本物の音楽に触れる機会が増える一方で、学校行事等もあり、主対象と考える小学校(6年生)からの公演依頼が少ない。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	8	キッズオルガン教室・パイプオルガン探検隊	幼少期からの芸術体験の楽しみを通して文化的土壌を育成するため、県下最大のパイプオルガンを活用し、子どもの演奏技術等の向上を目指す事業と、気軽に家族で参加できる鑑賞型事業を実施する。	文化振興課	①実施回数 ②参加者(体験者)数	【令和5年度の目標値】 ①キッズオルガン教室5回/パイプオルガン探検隊1回以上 ②計150名	①5回/1回 ②計271名	【事業概要】 当市の特色を打ち出した文化事業として、県下最大のパイプオルガンを活用した各種ワークショップを実施。 子どもの演奏技術向上等を目指す教室事業と、気軽にご家族で参加いただける鑑賞型事業の2プログラムを実施。キッズオルガン教室は、個人レッスンの時間を設けたことにより、参加者の満足度を上げた。パイプオルガン探検隊は、過去最高の参加者(体験者)数となった。 【成果】 計画的、継続的なワークショップを実施することにより、子どもたちの豊かな創造性を育むことができた。個人レッスン市文化振興条例に基づく文化振興基本計画(基本目標Ⅳ-基本施策1-具体的取り組み③体験や参加、参画企画の充実)を遂行できた。 【課題】 楽器の設置台数が希少なため、参加者が楽器を体験出来る時間に制約が生じる。一人一人の満足度を上げるための工夫が必要。	1

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	9	環境保全対策事業	自然環境、歴史的、文化的環境、生活環境などの良好な環境の保全及び創造を図るため、環境基本計画に基づく取組を推進する。	環境課	①市内における水鳥観察会の開催 ②幼稚園・保育所・こども園にて緑のカーテンを設置 ③環境保全の意識高揚を図るために広報にて啓発	【令和5年度の目標値】 ①市民団体等による水鳥観察会の開催を支援し、ラムサール条約に関する啓発を行う。 ②全公立幼稚園・保育所・こども園で実施 ③定期的な広報活動	①実施 ②実施 ③環境保全に関する内容の広報掲載	【事業概要】 ①市民団体による水鳥観察会の開催支援を行い、ラムサール条約に関する啓発を行う。 ②環境保全活動団体「ボレボレ25」協力のもと、地球温暖化についての学習と節電効果の体験としてゴーヤで緑のカーテンを設置する。 ③意識高揚のため、地球温暖化や節電・リサイクルに関する内容を広報に掲載する。 【成果】 ①市民団体主催で水鳥観察会を実施し、ラムサール条約に関する啓発を行った。 ②新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しつつ、希望される市内公立幼稚園・保育所・こども園で事業を行った。 ③定期的な広報に加え、年4回おうみはちまんエコ通信を掲載。 【課題】 ・短期的な活動で環境保全の意識向上を行うことは難しく、一過性のものにならないよう継続して取り組んでもらえるような工夫をする必要がある。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	10	食農ファーム推進支援事業(田んぼのこ体験事業)	児童が育て、収穫し、食べるという一貫した農業体験学習を実施し、農業への関心を高めるとともに生命や食物の大切さを学ぶ。地域の農家の皆さんの協力を得て、人の心を癒すモノづくりを農業教育ファームとして展開することで、子どもたちの健やかな心を育て、田畑を教室にして、知恵や心を育む地域づくり学校を目指す。	学校教育課	市内の全小中学校で実施	・地域の農家やボランティアの皆さんと連携を深め、児童にとって豊かな体験となるように工夫・改善を進める。 【令和5年度の目標値】 ・引き続き市内の全小中学校で実施する。また、各小中学校の取組を交流する機会を設ける。	・市内の全小中学校で実施した。 ・各校で事業計画を立て、地域の農家の方々等の協力を得て体験学習を実施することができた。 ・各小学校の取組を交流する機会を持つことができなかった。	【事業概要】 児童が自ら田んぼや畑に入り様々な農作業を行い、ここで収穫した作物を調理して食べることを基本としている。栽培作物は、水稻を中心に野菜等地域に応じた食用作物を選択して栽培する。作物を栽培するときは、化学合成農薬や化学肥料をなるべく使わないなど、環境にこだわり農業に準じた栽培を行うよう心がけている。また、地域の農家と連携しふるさと教育の一環としての意味合いも大きい。 【成果】 学校と地域が一体となって子どもたちに関わり、「育て」「収穫し」「食べる」という活動を通して食べ物を大切に思う心や、人との出会いや関わりを通して感謝の心を育むことができた。 【課題】 学校の敷地外に田があるため、稲の日常的な観察や世話をすることは難しい。野菜等は各自の植木鉢や学校農園で栽培・収穫しているが、仕事の大変さを感じるには至らない。心情面を耕す、道徳的な学習の充実を考えることが必要である。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の実況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	11	キャリア教育推進事業	市内の子どもたちが、社会人、職業人として自立し、地域につながるキャリア教育・職業教育の充実と推進を図る。	学校教育課	中学生チャレンジウィークにおける体験活動の日数	・市内の中学校が教育委員会と情報共有しながら職場体験の受け入れ先を開拓し、各校5日間の体験活動ができるように進める。 【令和5年度の目標値】 職場体験 5日間	・市内全中学校で5日間実施した。 ・職場体験学習を楽しみにしている子どもが多く、前向きに取り組んでいた。 ・保護者や事業所は職場体験を良い学習の場であると感じていた。	【事業概要】 子どもたちが実際に地域の事業所に出向いて働くことを通して、働く人の思いに触れ、自分の生き方を考える機会とする。地域との連携を深め、地域で子どもを育てる気運を高める。 【成果】 あいさつや振る舞いなど基本的な事を身につけ、働くことの厳しさや喜び、労働に対する正しい認識を持つことができた。また、マナーやルールの必要性を身をもって理解することができた。日常にはない貴重な体験を通じ、仕事に対する興味や関心も広がり、より一層、将来の自分像を描きやすくなった。今後の進路学習や人生設計にも生きる活動となった。 【課題】 子どもたちの変化を生かした、事前・事後学習の充実、家庭・地域・学校との連携がより必要である。コロナ禍で受け入れ事業所が減ったことから、事業所の確保が困難であった。さらなる体験事業所の確保が必要である。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	12	講座・企画展示	地域に根ざした歴史や文学、自然等に関する講演会や親子ワークショップ等を行い、地域文化を次世代へ継承する。	図書館	①講座等の実施回数	多くの市民に参加してもらえるよう呼びかけ、地域の文化を次世代へとつなげる機会とする。 【令和5年度の目標値】 実施回数(年3回以上)	①講座等の実施回数:4回 【内訳】 ・日本釣振興会滋賀支部講座 ・平和を考える講演会 ・平和を考える写真パネル展 ・くせさなえ氏講演会 ・くせさなえ氏原画展	【事業概要】 ・近江八幡の歴史や文化、自然等に親しみ、本への関心を深めてもらうきっかけづくりとして、講演会やワークショップなどを行う。 【成果】 ・市民団体との共催等により、平和を考える講演会や、市内の絵本作家の原画展や講演会を開催した。 【課題】 ・より多くの市民に参加してもらえる魅力的な講座やワークショップを企画実施する。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	13	地域課題等学習講座	地域の市民一人ひとりが、精神障がいや発達障がい、高齢者問題、防災、新しい人権、家庭教育等の現代的課題を幅広く学び、学びを実践としてまちづくりに生かして地域課題の解決を図る。	生涯学習課 (中央公民館)	講座実施回数	・今後も各学区まちづくり協議会への事業周知を継続する。 ・地域課題に対応できる講師の情報を集める。 【令和5年度の目標値】 ・4学区6講座の実施をめざす。	実施回数2学区3講座実施	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会がそれぞれの地域にある課題について学習する講座を主体的に企画して実施する。 ・生涯学習課は、講師の紹介や予算執行を行う。 【成果】 ・地域のニーズに合わせた講座内容を扱うことができた。 ・様々な分野の講座をひらくことができ、市民の学びの機会を保障することができた。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	14	中央公民館講座	社会の要求に即した公民館講座や、生涯学習のまちづくりを推進するためのリーダー育成講座、子ども体験教室など、さまざまな講座を開催し、学習機会の提供を行う。	生涯学習課 (中央公民館)	①講座実施回数 ②参加者数	【令和5年度の目標値】 ・各コミセンを会場として年11回の開催をしたいところではあるが、年4回の開催をめざす。	①年3回実施 ②第1回15名、第2回20名、第3回47名	【事業概要】 第1回は親子ふれあい教室を行い、クッキーづくりを行った。 第2回は山登りを行った。山登りを通して、自然とふるさとについて学ぶ。 第3回は水鳥観察会を行った。宮ヶ浜に集まる野鳥を観察し、水鳥の特徴や自然保護の大切さを学ぶ。 【成果】 ・市内小学校に広報を行い、親子で学ぶ機会とした。家族だけでは体験できない内容であったため、満足度も高かった。 夏休みに開催でき、実施回数を増やすことができた。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	15	市民大学講座	市民に継続的な生涯学習の場を提供するとともに市民相互の交流の場とする。	生涯学習課 (中央公民館)	①講座実施回数 ②参加者数	【令和5年度の目標値】 ・オンライン動画公開数 ・再生回数 ・ホール型講座開催数 ・参加者数	オンライン動画公開1回 合計再生回数127回 ホール型講座 ・5回開催 ・参加総人数77名	【事業概要】 市民大学講座を歴史・健康・文化・読書などの多岐にわたるテーマ設定で開講し、それぞれにふるさと学習に関わる内容も加味した形で実施した。 【成果】 ・多岐にわたるテーマ設定で開講し、それぞれにふるさと学習に関わる内容も加味した形で5回開催 【課題】 広報が十分に行き届いていなかったため、広報誌やチラシ、LINEなど市民に向けたお知らせを工夫する。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	16	学校支援地域本部事業	地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制を確立する。また、地域全体で子どもを育てるための地域住民の意識向上と地域教育力を高める。	生涯学習課	支援ボランティア参加者数	【令和5年度の目標値】 ・支援ボランティア参加者数	支援ボランティア数のべ 約5,000名	【事業概要】 ・5幼稚園、2子ども園、12小学校、4中学校(合計23校)へと市内全ての公立校園で事業実施している。 ・地域学校協働活動推進員の活動の充実や不安の解消を図るため意見交流会や情報交換会を行い、よりよい事業の進め方を追求している。 【成果】 ・地域学校協働活動推進員の配置により教職員と地域住民とのつながりが生まれ、学校と家庭、地域との連携の意識が高まっている。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	17	にこまるポケット	モノ作りの伝統や日本がこれまで培ってきた技術や精神などを持つ地域人材や企業、団体等が出前授業や見学受入等を通じて生き方・知恵や技能を児童・生徒に伝える。	生涯学習課	にこまるポケットの講師登録者数	・様々な講師の方を迎えての学習によって子ども達が学ぶことの楽しさを実感できるような授業づくりの支援を図る。 【令和5年度の目標値】 ・「にこまるポケット」新規登録者数:2名	「人生伝承塾」新規登録者数:3名	【事業概要】・伝統文化やキャリア教育等の11の視点で講師リストを作成し、子ども達が興味関心をもてる学びの機会を設ける。 【成果】・登録いただいた講師の方々为学校や地域に出向いて、各講座にて子どもの学びの場を設けることができた。 Googleドライブ庁内LANで閲覧可能にし、より閲覧しやすく活用しやすい環境づくりを行った。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	18	学校支援メニューフェア	地域の人材・団体や企業の持つ出前授業や見学受入等の学校支援プログラムを学校に直接・間接的につなぐことで、技術や技能、精神を次世代に伝承するとともに社会全体で学校を支援する気運を醸成する。	生涯学習課	学校支援メニューフェア参加者数	にこまるポケットと統合し、事業廃止			
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ機会の提供	(2)②	19	国際交流事業	海外姉妹都市・兄弟都市との親善交流促進とこれらの国際交流事業を財団法人近江八幡市国際協会との協働により実施・充実を図る。	まちづくり協働課	国際交流を深めるための講座等の開催 ・多文化共生に関する講座 ・姉妹都市等からの使節団の受入対応、親善使節団の派遣の支援・補助するとともに、市内在住の外国籍住民との交流を深める交流会の開催	【令和5年度の目標値】 ・(公財)市国際協会への事業委託と事業協力により、新たな事業の企画等での活性化を図り、持続可能な手法を用いた講座等の開催により多くの市民が効果的な異文化交流を深め、意識を高めていく。	①友好姉妹都市交流事業 ・グランドラピッズ来幡(8/27~29) ・滋賀県ミンガン州友好親善使節団の来日(10/21~25の5日間)。 ②市民の国際交流を深めるための講座 ・南インド風チキンカレーを作る料理教室を開催。(7月) ・姉妹都市マントヴァの食文化にふれるイタリア料理教室(6月)を開催。	【事業概要】 ・市国際交流事業として、(公財)近江八幡市国際協会に事業委託を行い、市民が国際交流を深めるための講座等の事業を実施した。 【成果】 ・友好姉妹都市交流事業等を実施し市民の国際理解の促進を図ることができた。 【課題】 ・海外姉妹都市との親善交流が再開される中、単に参加者の人数を増やすことだけを重視せずいかに効果的で心のかよ事業を実施できるよう今後も継続的に取り組む必要がある。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ機会の提供	(2)②	20	多文化共生事業	外国人住民とともに暮らしやすく豊かな地域社会を形成する多文化共生のまちづくりを推進する。	まちづくり協働課	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生に関する講座 ・市行政窓口外国語通訳 ・翻訳業務 ・滋賀県等多文化共生事業の支援・協力 ・外国語教室の開催 ・やさしい日本語の普及 	<p>【令和5年度の目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民が多文化共生社会への理解を深めるため、持続可能な手法を用いた事業を実施する。 ・(公財)市国際協会への事業委託と実施協力により、日本人住民による多文化理解だけでなく、外国人住民が自らの役割を認識し、積極的に地域社会に参画していこうとする意識を醸成していく。 	<p>①市広報概略版(ポルトガル語、英語、やさしい日本語)の発行</p> <p>②市行政窓口外国語通訳・翻訳対応自動翻訳機(ポケットーク)を使用した市職員による窓口対応の実施</p>	<p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市多文化共生推進事業として、(公財)近江八幡市国際協会に事業委託を行い、市窓口における外国語通訳(ポルトガル語・英語)や、市民が多文化共生社会への理解を深めるための講座等の事業を実施した。 ・市民国際交流のつどいわいわいフェスタを5年ぶりに実施した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報概略版(ポルトガル語、英語、やさしい日本語)の発行を実施し、市民の多文化共生社会への理解を深めることができた。 	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ機会の提供	(2)②	21	人権尊重のまちづくり市民講座	人権文化の根付いた差別のない明るく住みよいまちづくりを目指し、あらゆる人権問題をテーマに広く市民に呼びかける学習の機会とする。	人権・市民生活課	①参加者アンケートの満足度	<p>オンライン活用等、多様な開催方法を検討する。</p> <p>【令和5年度の目標値】</p> <p>①アンケートの結果、9割以上が満足を得られるよう企画する。</p>	<p>①アンケート結果では「よかった」「まあよかった」が回答の9割を占めた。</p>	<p>【概要】</p> <p>コニシエツト代表・元入間市議会議員である細田智也さんを講師として招き、「自分らしく生きるー私の選んだ道ー」と題して講演会を開催した。</p> <p>【成果】</p> <p>当日参加者数は60名であった。アンケートは肯定的な意見が多かった。</p>	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	22	人権フェスティバル	人権文化の根付いた差別のない明るく住みよいまちづくりを目指す、あらゆる人権問題をテーマに市民が主体的に参画し、人権問題を自らの課題と捉え、相互の交流を通して豊かな人権感覚を育てる。	人権・市民生活課	①参加者数	<p>オンライン活用等、多様な開催方法を検討する。</p> <p>【令和5年度の目標値】</p> <p>①参加者数100名程度</p>	<p>①来場者数 約300名(内講演参加者数 約50名)</p>	<p>【概要】</p> <p>高齢者と子どもの人権をテーマに、mottoひょうご事務局長の栗木剛さんを講師として招き「自分らしく生きる～いろんな個性でつながる地域づくり～」と題して講演会を開催した。</p> <p>【成果】</p> <p>八幡学区まちづくり協議会及び人推協と共催し、男女共同参画市民のつどいと合わせて、人権・男女共同参画フェスタを八幡コミュニティセンターで開催した。人推協ではアウェアネスリボンワークショップを実施したり、かすうどんの販売を行った。</p>	1

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の実況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	23	人権尊重のまちづくり懇談会開催支援業務	明るく住みよいまちづくりを目指し、地域に根ざした人権啓発活動を推進する。	人権・市民生活課	①懇談会等実施自治会数	・幅広い年代が取り組むことができるような啓発資料の作成や実施方法を検討する。 【令和5年度の目標値】 ①懇談会等実施自治会全169自治会	①131自治会	【概要】 各自治会で人権啓発のDVDや啓発資料、パネル等を活用して、人権尊重のまちづくり懇談会を実施した。 【成果】 全169自治会中、131の自治会が人権啓発事業を実施した。新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類に位置付けられたことにより、対面形式での実施が増えた。 【課題】 人権尊重のまちづくり懇談会と男女共同参画推進事業の学習会を両方実施することが自治会の負担となっているとの意見がある。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	24	市民共生センター運営業務	高齢者や障がい児者を対象とした講座・教室を開講し、社会的自立を支援する。	障がい福祉課 (市民共生センター)	教室開講回数	目標値: 【パソコン教室】16回 【パソコンフォロー教室】32回 【折り紙教室】3回 【点字体験教室】5回 【切り絵教室】2回 【寄せ植え教室】1回 【自彊術教室】3回 【ポッチャ教室】4回	令和5年度における各種教室の開講回数は、下記の通りとなった。 【パソコン教室】8回 【パソコンフォロー教室】15回 【折り紙教室】3回 【点字体験教室】5回 【寄せ植え教室】1回 【自彊術教室】3回 【ポッチャ教室】4回 【カローリング教室】1回 【ビーンボウリング教室】1回	・パソコン教室およびパソコンフォロー教室においては、講師の体調不良による開催中止もあった事から、目標を下回る開講回数となった。今後は、利用者のニーズに応じて、開講回数を調整する必要もあるが、代役となる講師の確保も必要であると考えられる。 ・切り絵教室については、講師の体調不良のため、実施できなかった。 ・令和5年度では、障がい児者の健康増進を図るとともに、ふれあいの場を設けることを目的に、新たに「カローリング教室」と、「ビーンボウリング教室」を実施した。	3
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	25	企業内人権問題研修推進事業	企業・事業所における公正な採用選考が図られ、併せて差別のない明るい職場づくりへの啓発を行う。	商工振興課 (近江八幡市企業内人権問題推進連絡会)	①人権問題研修会の開催 ②講師派遣回数、教材貸出し回数 ③企業訪問実施企業事業所数 ④近江八幡市企業内人権問題推進連絡会加入企業事業所数	・引き続き、市内事業所に対して情報提供を行うとともに企業内人権の推進を行っていく。 【令和5年度の目標値】 ①年3回開催 各回参加者数20～30名(オンライン含む) ②講師派遣のべ4回 教材貸出しのべ10回 ③「企業内人権問題推進状況調べ」の回答状況により、企業訪問を実施するため、目標値の設定は行わない。	①市主催での人権問題研修会の開催(2/21開催17名) 市内外各所で開催される人権に関する研修会などの案内・情報提供を実施 ②企業内での自主研修実施に対する支援(講師派遣や教材・ビデオ等の提供)などに関してHPで掲載。実績は講師派遣のべ1回、教材貸出しのべ2回	【事業概要】 ・市内の企業・事業所に対し、差別のない公平・公正な選考システムの確立と企業内人権問題の啓発推進を図る。市主催の企業内人権問題研修会の開催や企業内人権問題研修啓発推進員(市職員や商工会議所職員等)による啓発推進訪問の実施、企業内での自主研修実施に対する支援(講師派遣や教材・ビデオ等の提供)などを行う。 【成果】 ・研修会を開催し、例年より多くの事業所に参加いただけた。	3

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	26	スポーツ関係団体人権学習会	あらゆる人権問題への正しい理解と自覚を培い、その成果を地域におけるスポーツ指導での実践に結びつけて活動していくことができる指導者の育成を図る。	スポーツ課	参加者数	・人権について毎年、テーマを1つ選んで実施しているが、今後も多岐にわたるテーマを選び、受講者になんらかの「気付き」を与えることができる学習会を開催していく。 【令和5年度の目標値】 ・近年の平均参加者数(参加者80人)	人権に関する学習会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を見送った。代替として、各団体の指導者へ人権問題に関する資料を提供した。	【事業概要】 ・市スポーツ協会加盟の競技団体や、スポーツ少年団、学区スポーツ振興団体等の指導者やスポーツ推進委員を対象に人権問題についての学習会を開催する。 【成果】 ・なし 【課題】 ・参加者が学習会で学んだ内容をそれぞれの活動の中でどう活かしているかが見えてこない。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	27	住みよいまちづくり推進講座	男女共同参画や子どもの人権、精神障がい、発達障がい、高齢者問題等のあらゆる人権問題への正しい理解と自覚を培う。	生涯学習課 (各学区まちづくり協議会に委託)	講座実施回数	・全ての学区での開催を依頼する。 ・アンケートの集計結果を活用する。 【令和5年度の目標値】 ・各学区年3回以上の実施継続を依頼する。	実施回数10学区27回 (参加者数のべ1297名)	【成果】 ・今年度も全ての学区での開催できた。昨年以上の参加者を集める学区もあり、充実した講座を実施された。学びの機会があることを大変喜ばれていた。 【課題】 ・実施期間の限定せず年間を通じてなど、検討が必要。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	28	社会教育関係団体人権学習会	社会教育関係団体の関係者が、あらゆる人権問題への正しい理解を学び、学んだことを各団体の活動に生かしていく機会とする。	生涯学習課	学習会実施回数	【令和5年度の目標値】 ・実施回数1回以上	実施回数1回 参加者数約40人	【事業概要】【成果】 近江八幡市PTA連合会と共同で社会教育関係団体を対象とした人権教育研修会を1回実施し、各団体の会員延べ40人が参加しました。人権学習を内容に含む事業(住みよいまちづくり推進講座)を研修会として指定し、参加を奨励しました。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の実況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	③学びの要求の充足	(2)③	31	安土文芸の郷公園指定管理事業	市民の文化・芸術及び体育の振興・健康増進を図り、創造的文化活動と生涯学習を推進するため、各種自主事業及び貸館事業を行う。	文化振興課	実施回数	【令和5年度の目標値】 ①ワンコインコンサート 8回 ②はつらつコンサート 5回 ③能楽教室 24回 ④タイムスリップツアー 4回 ⑤子ども歴史塾 4回 ⑥リトミック教室 8回 ⑦シニア健康教室 20回	令和5年度は、前年度に引き続き施設の改修工事により休館の期間があったが、以下の事業により、文化芸術の振興を図った。(あづちマリエートが12月～3月まで休館) ①ワンコインコンサート 8回 ②はつらつコンサート 5回 ③能楽教室 51回 ④タイムスリップツアー 4回 ⑤子ども歴史塾 4回 ⑥リトミック教室 8回 ⑦シニア健康教室 22回 ⑧エクササイズ&ヨガ 10回 ⑨クラシックコンサート 1回 ⑩クリスマスコンサート 1回 ⑪オルガン教室 24回	【事業概要】 ①乳幼児も入れる親子で楽しめるコンサート。聴きなじみのある身近な楽曲を中心に楽しい話を交えながら約1時間のコンサートを行った。 ②高齢者や在宅の方、障がい者の方にも気軽に参加していただけるコンサートを開催した。 ③観世流シテ方の講師を招き、原則月2回稽古および成果発表会を実施した。 ④VR安土城シアターを使用し、操作体験やスタッフの説明に合わせて、城下から安土城へとCG映像の中を散策していただく体験を行った。 ⑤小学生から中学生を対象として、「信長忍者隊」として“安土城のひみつを探る”をテーマに、VR映像からのクイズやマニュアル操作体験、館内展示物の案内などを行った。 ⑥0歳児から1歳児コース(45分間)と2歳児から3歳児コース(45分間)の2コースで、親子約30組の募集を行い、リトミック研究センターからの派遣講師による教室を開講した。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	③学びの要求の充足	(2)③	32	総合型地域スポーツクラブ支援事業	誰もが身近な場所で生涯にわたってスポーツに親しめる場の充実を図る。	スポーツ課	開催実績	【令和5年度の目標値】 ・継続した学区スポーツ行事の開催及び活性化を図れるよう支援を行っていく。	各学区毎で各種スポーツ大会やウォーキング大会などが開催された。学区運動会については、すべて学区で予定をされていたが、雨天により中止となった学区もあった。学区によっては運動会のあり方を検討し、スポーツフェスティバルなどを開催した学区もあった。	【事業概要】 ・本市の総合型地域スポーツクラブは市内11学区のスポーツ振興団体で構成されているため、学区スポーツ振興団体の取り組みを中心とした総合型地域スポーツクラブの側面的支援を図る。 【成果】 ・誰もが参加できるニュースポーツの情報提供などを行った。 【課題】 ・コロナ禍により学区スポーツ行事が軒並み中止となったことで、役員の意識、参加者の参加意欲の低下を招いている。若い世代の参加が減少している状況である。	3
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	③学びの要求の充足	(2)③	33	スポーツ教室	自己の能力や体力に応じて、手軽にスポーツを楽しみ、継続的にスポーツ活動を行うきっかけとなるような教室を開催する。	スポーツ課	①参加者 ②教室数	・多種多様な市民ニーズに対応すべく、15講座を開講していく。 【令和5年度の目標値】 ①参加者のべ2,500人 ②15講座の開講	①参加者のべ2,248人 ②13講座の開講	【事業概要】 ・スポーツ教室を開講し、市民へスポーツ機会を提供する。また、より多くの方に参加してもらえるようニーズに応じた内容に改善を図る。 【成果】 ・新たな教室を企画するなどし、スポーツ教室を概ね計画通り開催することができたが、コロナ禍をきっかけにスポーツ離れが進み、参加者数は低調であった。	3

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	③学びの要求の充足	(2)③	34	読書活動推進事業 (No.1再掲)	社会情勢に即した新鮮な情報や魅力ある資料の収集提供を行い、市民の生涯にわたる豊かな学びを支える。	図書館	①市民一人当たりの資料費 ②市民一人当たりの貸出冊数 ③月例コーナーからの貸出冊数	資料費の確保、蔵書の充実を図り、貸出につながる工夫を行う。 【令和5年度の目標値】 指標②③の前年度比100%以上	①市民一人当たりの資料費: 312円(R5年度:311円) ②市民一人当たりの貸出冊数: 6.6冊(R5年度:7.4冊) ③月例コーナーからの貸出冊数: 42,823冊(R5年度: 44,662冊)	【事業概要】 ・近江八幡館、安土館の利用状況や特色を考慮した選書を行い、効果的な資料の購入を行う。また、コーナー展示により、新刊ではない資料を魅力的に見せることで貸出冊数の増加を図り、図書館利用の活性化を図る。 【成果】 ・移動図書館車「はちっこぶっく号」は定期巡回先だけでなく、夏休み放課後児童クラブに声をかけ、最寄りのコミュニティセンターでの利用を促進した。6団体、約400冊利用。	3
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	(3)①	35	防災出前講座	学区・自治会や団体等の求めに応じて、防災に関する講座を実施し、市民の防災意識の醸成に努めるとともに、災害に強いまちづくり・即応できる人づくりを推進する。	危機管理課	・講座実施回数 ・参加者数	・実施回数 5回 ・総参加者数 100名	・実施回数 11回 ・総参加者数 250名	自治会や各種団体、学校からの依頼により防災意識の醸成、災害に強いまちづくり・即応できる人づくりを推進した。 新型コロナウイルス感染症が感染症法5類になったことから、例年どおりに講座を開催される自治会等が増えたこともあり、目標を達成することができた。 これまで、ほぼ自治会での開催であった出前講座が近年、小学校や市内団体での開催が増えてきている。今年度は実施回数の内5回が自治会以外での開催であり、要配慮者(障がい者・子どもなど)の防災・減災について広く目が向けられるようになってきたものと考えている。	1
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	(3)①	36	人権教育啓発講師団養成事業	人権文化の根付いた差別のない明るく住みよいまちづくりを目指し、あらゆる人権問題をテーマに広く市民に呼びかけ学習の機会とする。	人権・市民生活課	①人権教育啓発講師団登録人数 (団体)	講師団の充実のため、人材の発掘や養成に努める。 【令和5年度の目標値】 ①人権教育啓発講師団名簿登録者の増加 5人(団体)の登録増	①27人(団体)	【概要】 市内自治会や団体などが実施する研修会において、主催者の要請に応じて、支援や助言ができる人権教育啓発講師を構成し、また、講師・指導者の研修を実施する。 【成果】 令和4年度は47人(団体)だったので、20減となった。 【課題】 講師団名簿への登録意思確認を実施した結果、辞退される講師が多かった。講師のさらなる発掘に努める必要がある。	4

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	(3)①	37	子育てサポーター養成講座の実施	子育てに関する知識や子育て支援活動に必要な知識及び技術の講習・研修を行い、本市の子育て支援の一翼を担う子育てボランティア「子育てサポーター」を養成する。	子育て政策課	①研修会及び講座の回数 ②参加人数	・子育て支援者の養成と資質向上に努める。 【令和5年度の目標値】 <子育て支援者のための勉強会 ・今年度も引き続き、外部委託として実施。・研修会開催 <子育て支援担当者会議> ・情報交流・研修会開催	<子育て支援者のための勉強会> 外部委託で開催 ①年 4回 ②来場者数 44名 WEB参加者数 23名 合計参加者数 67名 <子育て支援担当者会議> 研修会としては、開催なし。 ①担当者会議 年4回開催 ②各学区の子育て支援担当者が参加	<子育て支援者のための勉強会> 内容「子どもの理解」「課題を抱える家庭への支援」「子どもの病気やケガ、予防やその対処法」「不登校の子ども達とその家族のおはなし」 市内の子育て支援関係者が集い、有識者から子育て家庭が抱えている現状を学び合う機会となった。ハイブリッド開催したことで、子育て中の方(子育てサークル、当事者)も参加できた。ZOOMにうまく入室できなかった回もあったため、今後の課題として残る。	2
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	(3)①	38	住みよいまちづくり推進講座 (No.27再掲)	男女共同参画や子どもの人権、精神障がい、発達障がい、高齢者問題等のあらゆる人権問題への正しい理解と自覚を培う。	生涯学習課 (各学区まちづくり協議会に委託)	講座実施回数	・全ての学区での開催を依頼する。 ・アンケートの集計結果を活用する。 【令和5年度の目標値】 ・各学区年3回以上の実施継続を依頼する。	実施回数10学区27回 (参加者数のべ1297名)	【成果】 ・今年度も全ての学区での開催できた。昨年以上の参加者を集める学区もあり、充実した講座を実施された。学びの機会があることを大変喜ばれていた。 【課題】 ・実施期間の限定せず年間を通じてなど、検討が必要。	2
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	②学びを生かしつなぐ活動の支援	(3)②	39	近江八幡市美術展覧会	市民に積極的な創作活動発表の場を提供し、また、身近で作品を鑑賞し美術に親しむ機会をつくることで、市の美術文化の向上を図る。	文化振興課	①出品数 ②来場者数	【令和5年度の目標値】 ①出品数 250点 ②来場者数 1,000人	①出品数 244点 ②来場者数 711人	【事業概要】 平面・立体・工芸・書・写真の5部門を公募し入選作品の展示を文化会館で行う展示会。入選作品のうち、特に優れた作品を特選(特別賞を含む)、準特選、奨励賞に、また、審査員による作品の講評会を行う。今年度は、新たに対話型鑑賞会を実施した。(参加者数14名) 【課題】 年々出品者数や来場者数が減少傾向にあり、市民の文化芸術に対する意識・関心が低下していくことが懸念される。	3

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	②学びを生かしながら活動の支援	(3)②	40	男女共同参画市民のつどい	「女性だから」、「男性だから」という性別の枠に縛られることなく、個人としての生き方を大切にしながら、共に協力して築く心豊かな社会づくりを進めるため開催する。	人権・市民生活課	①参加者数	オンライン活用等、多様な開催方法等を検討する。 【令和5年度の目標値】 ①参加者数100名程度	①来場者数 約300名 (内講演参加者数 約50名)	【概要】 落語家の桂三扇さんを講師として招き、「女性落語家奮闘記」と題して講演会を開催した。 【成果】 八幡学区まちづくり協議会及び人推協と共催し、人権フェスタと合わせて、人権・男女共同参画フェスタを八幡コミュニティセンターで開催した。人推協ではアウェアネスリボンワークショップを実施したり、かすうどの販売を行った。このほか、異文化交流として外国料理の出店や世界のコマ回し体験コーナー等が設けられた。	1
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	②学びを生かしながら活動の支援	(3)②	41	親育ち・子育て応援ひろば事業(カンガルー広場)	親子が自ら企画し、主体的に活動することにより、「遊びの重要性に親が気づく」「親同士が仲間づくりをする」「親自身が自ら育つ」ことを目指す。	子育て政策課	①活動回数 ②参加者数	【令和5年度の目標値】 ①活動回数 各センター20回 ②参加者数 八幡子どもセンター10組 八幡西子どもセンター6組	①活動回数 八幡子どもセンター 20回 八幡西子どもセンター 20回 ②参加者数(R6.2月現在) 八幡子どもセンター 12組 延べ参加組数 211組	カンガルー広場の目的に賛同・興味のある保護者が集い、年20回開催する。内容は、自分達でアイデアを出し合い、体験したいこと、学びたいこと等を中心に行う。回を重ねるごとに、保護者同士の繋がりが深まり、互いの悩みを相談しあったり、情報交換しあったりといった姿が増えていった。保護者自身が仲間と共に子どもの気持ちを理解し、子どもとのかかわり方を学び、共に育ち、親としての自信を身に付けていく様子が伺える。	2
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	②学びを生かしながら活動の支援	(3)②	42	地域課題等学習講座(No.13再掲)	地域の市民一人ひとりが、精神障がいや発達障がい、高齢者問題、防災、新しい人権、家庭教育等の現代的課題を幅広く学び、学びを实践としてまちづくりに生かして地域課題の解決を図る。	生涯学習課(中央公民館)	講座実施回数	・今後も各学区まちづくり協議会への事業周知を継続する。 ・地域課題に対応できる講師の情報を集める。 【令和5年度の目標値】 ・4学区6講座の実施をめざす。	実施回数2学区3講座実施	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会がそれぞれの地域にある課題について学習する講座を主体的に企画して実施する。 ・生涯学習課は、講師の紹介や予算執行を行う。 【成果】 ・地域のニーズに合わせた講座内容を扱うことができた。 ・様々な分野の講座をひらくことができ、市民の学びの機会を保障することができた。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	③人の交流によるまちの活性化	(3)③	43	各種スポーツ大会	多忙な日常生活のなかで、運動不足、ストレスの解消と学区民の交流・親睦を目的にスポーツ事業を実施する。	まちづくり協働課 (まちづくり協議会)	(各まちづくり協議会で独自の評価を設定し実施)	【令和5年度の目標値】 ・今後も広く住民周知や新たな取組等も検討するなど、常に検証・評価や見直しを行いながら、住民理解・意識醸成が高まるような事業を検討・実施していく。 ・イベント等の開催支援、または代替事業の提案を行う。	・各学区まちづくり協議会が「健康・福祉のまちづくり事業(体育振興事業)」として、各スポーツイベント等を実施した。うち、雨天により6学区が中止となった。	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会事業で「健康・福祉のまちづくり事業(体育振興事業)」としてスポーツイベント等を実施したが、雨天等により6学区が中止した。 ・従来の方法を見直し、半日程度の開催とする学区がほとんどであった。また、参加方法等の見直しを行い、誰もが参加しやすい内容を実施するなど工夫が見られた。 【成果】 ・学区や地域が持つ資源(モノ・人材)を発掘・活用し、学区民の健康保持とスポーツを通じての交流・親睦が図れた。	3
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	③人の交流によるまちの活性化	(3)③	44	学区文化祭	学区民の日ごらの活動(サークル・学習活動)の成果の発表の場と交流・親睦を目的に開催する。	まちづくり協働課 (まちづくり協議会)	(各まちづくり協議会で独自の評価を設定し実施)	【令和5年度の目標値】 ・今後も広く住民周知や新たな取組等も検討するなど、常に検証・評価や見直しを行いながら、住民理解・意識醸成が高まるような事業を検討・実施していく。 ・持続可能な手法を用いた文化祭・文化のつどいの開催支援を行う。	・各学区での文化活動のトップ事業として、学区や地域の特性に応じた企画を実施した。展示中心の学区も多かったものの、工夫を凝らした事業を実施できた。	【事業概要】 ・各学区の特性に応じた文化祭を開催し、学区民の文化活動の発表の場を設けることができた。 ・キッチンカー等飲食の提供を再開する学区も多く、令和4年度以前と比べて参加者の増加がみられた。 【成果】 ・飲食を含めた通常開催の学区が多く、盛況であった。 ・展示期間を延長する等の工夫をしながら事業実施に取り組もうとする姿勢がみられた。	2
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	③人の交流によるまちの活性化	(3)③	45	リサイクル資料を活用した市民提案事業	市民参画の場を提供するとともに、除籍本を有効活用し、広く市民に還元する取組を実施する。	図書館	①リサイクル実施回数	除籍本のリサイクル販売を定期的に行い、その収益をもとに、講演会等、市民への還元事業を実施する。 【令和5年度の目標値】 実施回数(月2回以上)	①実施回数: 26回	【事業概要】 ・「近江八幡市立図書館におけるリサイクル資料を活用した市民提案事業」により、事業実施団体「ゆっくぶっく」に図書館の除籍本を譲渡し、リサイクル販売の売り上げを市民に還元する。 【成果】 ・近江八幡図書館において除籍本のリサイクル販売を月2回行うとともに、安土図書館における無人古本市を2回実施。両館合わせて26回実施し、合計4,048冊、206,500円の売り上げがあった。	1

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	③人の交流によるまちの活性化	(3)③	46	スポーツ大会	健康の保持増進を図るとともに、参加者同士の交流を深める。	スポーツ課	参加人数	・アンケート結果や関係者の意見を参考にし、コースの変更や運営方法について協議し、より魅力的な大会にしていきたい。 【令和5年度の目標値】 ・マラソン大会1,800人 ・駅伝競走大会80チーム	・マラソン大会1,476人 ・駅伝競走大会56チーム	【事業概要】 ・市スポーツ協会や学区スポーツ振興団体、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、各種競技団体と協力し、水郷の里マラソン大会や駅伝競走大会を開催する。 【成果】 ・マラソン大会については、感染症対策により規模縮小していたものを、参加者条件を撤廃しコロナ禍前の要件で4年振りに開催できた。 ・駅伝大会については、エントリーチーム数は前回大会より増えたものの低調であったが、全チーム完走いただき、事故もなく無事に開催できた。	3
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	(4)①	47	文化芸術振興基本計画推進業務	計画の推進のため、市民意識の醸成とともに協働と参画のもと、活動の主体がそれぞれの役割と責任に応じて取り組める推進体制を整備する。	文化振興課	文化振興基本計画にかかる実施事業の把握	【令和5年度の目標値】 令和4年度実施分の進捗状況調査の実施。	庁内の文化関連事業を体系毎に整理し、庁内外の機関で事業の点検評価を行った。	【事業概要】 令和5年度実施分の文化関連事業について事業調査を行い、庁内組織委員会及び文化振興審議会にて点検評価を行った。また、調査や評価の結果を1冊の冊子にまとめ、市民に公表した。 【成果】 各文化事業について細かく知ることができたとともに、体系的にまとめたことで、現在の市の文化振興施策の強弱が顕在化し、文化振興審議会を通して今後の取組方針が見出せた。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	(4)①	48	本のまち！動く図書館事業	図書館から遠く来館が困難な市民に対し、広く読書の機会を保障する。	図書館	①貸出冊数 ②利用人数	定期巡回における利用を定着させるとともに、イベント等に合わせた特別巡回を実施し、市民が本に触れる機会を増やす。移動図書館ミニの巡回を開始し、未就学施設での貸出・おはなし会を行う。 【令和5年度の目標値】 指標①②の前年度比100%以上	①貸出冊数：20,508冊 (R5年度：16,368冊) ②利用人数：8,058人 (R5年度：6,021人)	【事業概要】 ・図書館から遠く、利用が困難な市民に移動図書館車で本を届けることにより、読書の機会を保障し、全域サービスの充実を図る。 【成果】 ・はちっこぶっく号ミニを稼働させることで、8つの未就学施設において園児への貸出とおはなし会を実施することができた。 ・定期的に巡回しているステーションだけでなく、水郷の里マラソンに出動し、PRを兼ねて貸出をおこなった。また、近江八幡館の蔵書点検のための休館中に、Gネットしがでの「こどもとよかん」キックオフフォーラムに移動図書館車2台を出動させ、貸出をおこなった。	1

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	(4)①	49	学校体育施設開放事業	身近で気軽なスポーツ活動場所の確保という市民のニーズに応えるべく、市立学校体育施設を開放する。	スポーツ課	使用者数	・地域スポーツの拠点として、身近で気軽に利用できる体育施設として、利便性が良いことから、持続可能な事業となるよう努めていく。 【令和5年度の目標値】 使用者のべ50,000人	使用者のべ55,000人(見込み)	【事業概要】 ・市内市立小、中学校の学校体育施設を学校運営に支障の無い範囲において、市民に夜間開放を行う。 【成果】 ・各学区の学校体育施設を開放することにより、身近かつ利便性のある体育施設として多くの方々の利用を得られた。 【課題】 ・管理者が体育館等に常駐していないため、防犯・防災等が各開放運営委員会に委ねられている状況となっている。	1
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	(4)①	50	生涯学習推進実施計画進捗管理	「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」掲げる理念や実施目標、実施項目を具体的施策として推進していく。	生涯学習課	①生涯学習関係課会議の開催 ②社会教育委員・公民館運営審議会委員会議での報告	【令和5年度の目標値】 ①社会教育委員・公民館運営審議会委員会議での報告	①令和5年 6月14日 報告	【事業概要】 ・「実施計画」に掲げる実践項目別の関係所属の個別事業の進捗状況調査 ・「実施計画」の個別事業の成果と課題、目標達成状況の把握 ・進捗管理を通して生涯学習課と各所属が情報を共有することにより、連携を密にし、生涯学習・社会教育政策が効率的・体系的に推進されるよう支援 【成果】 ・各所属の生涯学習・社会教育推進事業の進捗状況を把握できた。 ・進捗管理を行うことにより、構想の目標達成状況を把握できた。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	51	子ども文化芸術賞	子どもたちの豊かな心と感性を育むうえで重要となる文化芸術活動を推進するため、様々な文化芸術活動に励む子どもを応援し、文化芸術への意欲を高めることを目的に顕彰事業を行う。	文化振興課	①応募件数 ②受賞者数	【令和5年度の目標値】 ①30件 ②30件程度	①62件 ②36件	【事業概要】 令和5年10月10日から12月20日まで公募を行い、受賞者の表彰式を行った。 【成果】 各校や保護者などから、小学生から高校生合わせて62件の推薦があり、特別賞に10名、芸術賞に個人22名、団体2団体、審査会特別賞に個人2名の受賞が決定した。市HPや市広報で受賞者や活動紹介を行い、3月23日に文化会館で表彰式を開催した。受賞者や関係者から「今後の励みとなる。」「受賞して嬉しい」等喜びの声をいただいた。市文化振興条例に基づく文化振興基本計画(基本目標IV-基本施策1-具体的取り組み⑥顕彰の実施)を遂行できた。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の実況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	52	地域子育て支援拠点事業	乳幼児親子が気軽に集える場を提供し、親子の交流や学びの講座、育児相談等を実施します。	子育て政策課	①活動回数 ②参加者数	【令和5年度の目標値】 ①活動回数 各センター 20回 ②参加者数 各センター 10組	<p><学びの講座> ①活動回数および参加人数 <八幡子どもセンター> 離乳食相談 8回 25組 歯科相談 2回 11組 応急手当 1回 11組 <八幡西子どもセンター> 栄養相談 2回 6組 歯科相談 2回 9組 助産師相談 2回 13組 応急手当 1回 9組 育児相談 3回 6組 子育て座談会 4回 14組 <八幡東子どもセンター> 食育相談 1回 6組 歯科相談 1回 8組</p>	<p>学びの講座では、子育ての知識や子育てに役立つ情報を専門家から学ぶ機会となっている。栄養相談(離乳食相談)、歯科相談、助産師相談、応急手当など、それぞれの専門の講師が分かりやすく丁寧に指導をしてくださり、保護者の満足度・関心度は高い。新型コロナウイルス感染症対応で、内容の工夫をしながら開催しているが、日々の子育ての中で知りたいと思っていることを直接聞けるよい機会となっている。育児相談については、八幡子どもセンターでは「相談日」として設けてはいないが、センター利用の保護者との日常会話の中で質問や悩みにこたえるようにしている。</p>	3
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	53	おはなしメリーゴーランド	おはなし会を通して、乳幼児期から読書習慣を身につけ、親子のコミュニケーションを深められるように支援する。	図書館	①実施回数 ②参加者数 ③赤ちゃん絵本の貸出冊数 ④継続した参加者(4回以上参加)	<p>親子と一緒に絵本の時間を楽しんでもらい、絵本の良さ、読み聞かせの良さを知ってもらう。</p> <p>【令和5年度の目標値】 指標②③④の前年度比100%以上</p>	<p>①実施回数:近江八幡館12回、安土館12回計24回(R5年度:計23回) ②参加者数:近江八幡館321人、安土館128人計449人(R5年度:計227人) ③赤ちゃん絵本の貸出冊数:31,342冊(R5年度:31,905冊) ④継続した参加者(4回以上参加):16人(R5年度:9人)</p>	<p>【事業概要】 ・おはなし会を通して、親子で絵本の楽しさを知ってもらい乳幼児期から読書習慣を身に付けてもらう。また参加者同士のコミュニケーションの充実を図る。 ・コロナ禍以前同様、近江八幡館、安土館ともに毎月1回ずつ実施した。</p> <p>【成果】 ・参加者が2倍に増えた。原因はコロナ禍が収束したことと、ブックスタートでの利用カード受付を実施したことが挙げられる。参加者の増加:近江八幡館:187%、安土館:233%</p>	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	54	ブックスタート事業	読書を通して、親子のコミュニケーションの大切さや読書の意義を伝える。	図書館	①実施回数 ②赤ちゃん絵本の貸出冊数(両館合計) ③4ヶ月健診児登録率	<p>絵本の良さを伝え、おはなし会の案内、利用カード作成を促し、親子での図書館利用につなげる。</p> <p>【令和5年度の目標値】 ・指標②③の前年度比100%以上 ・コロナ禍の中でも、メッセージをしっかりと届けられるような取組を実施する。</p>	<p>①実施回数:24回(R5年度:24回) ③赤ちゃん絵本の貸出冊数:31,342冊(R5年度:31,905冊) ③4ヶ月健診児登録率72%(R5年度:71%)</p>	<p>【事業概要】 ・保健センターの4か月健診時に、親子に絵本の読み聞かせや優しい言葉がけの大切さを保護者に伝え、ファーストブックを手渡す。乳幼児期から絵本に親しむことで、読書習慣を身につけてもらう。またその場で図書館の利用カードを希望者に作成し、図書館への利用を促す。</p> <p>【成果】 ・利用カード登録率は微増。 ・「ブックスタート時の案内を聞いて来た」と、おはなしメリーゴーランドに参加される方が多く見受けられ、ブックスタートでの周知に効果があることがわかった。</p>	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	55	就学前わくわく絵本体験事業	乳幼児から読書習慣を身につけるため、就学前施設に配本等を行い、家庭での読み聞かせの普及を図る。	図書館	①0～6歳児一人当たりの貸出冊数	移動図書館車「はちっこぶっく号ミニ」の運行を開始し、未就学施設への絵本の貸出・おはなし会を実施する。 【令和5年度目標値】 指標①の前年度比100以上	①0～6歳児一人当たりの貸出冊数:12.0冊(R5年度:11.4冊)	【事業概要】 ・乳幼児期から読書習慣を身につけてもらい、公立園、私立園問わず、市内の全ての園児が等しく同じ絵本体験ができるよう努める。 ・「はちっこぶっく号ミニ」で未就学施設を巡回し、絵本の貸出・おはなし会を実施し、1年を通じて絵本体験ができるよう図る。 【成果】 ・図書館から遠い場所にある8園を巡回し、貸出・おはなし会を実施した。また、毎回各園へ、おすすめ絵本30冊の団体貸出を行い、保育の中で絵本の読み聞かせを実践してもらうよう、働きかけた。	1
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	56	家庭教育支援基盤形成事業	本市の家庭における教育力の向上を目指し、地域住民やPTAの参画による取組を進める。学校・家庭・地域の連携のもと、地域人材を有機的に結びつけ子どもの健全な育成と安心安全な居場所の確保に支援を行う。	生涯学習課	各校での子育て講演会、サロンの実施回数	・各小学校単位に配置 【令和5年度の目標値】 市の子育てサロン実施回数3回 訪問型支援実施校6校	・各小学校単位に配置 【令和4年度の目標値】 市の子育てサロン実施回数5回 訪問型支援実施校6校	【事業概要】 少子化や核家族化に伴い、家族での子育てへの不安や孤立感を持つ親の増加を受け、家庭での教育力向上と、家庭教育への支援体制の充実を図るため、それらの環境整備の推進する。 【成果】 ・それぞれの小学校区の実態に応じた家庭教育支援の取組を展開している。 ・市の子育てサロンについて、目標回数よりも多く開催した。 ・サロンの参加方法をオンライン可能にしたことで、幅広く保護者に情報できるようになった。	1

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の実況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	57	早寝・早起き・あさ(あいさつ)、し(食事)、ど(読書)、う(運動)推進事業	基本的な生活習慣の確立に向けた教育力の向上をはかる。	関係課 (学校教育課、学校給食センター、幼児課、図書館、生涯学習課)	①各校からの早寝・早起き・あさ・し・ど・うに関する学校だより等による啓発実施回数 ②食育・図書館教育に関する会議の実施回数、小学校の健やかタイムの実施回数 ③3年に1度の生活習慣アンケートの中で、早寝・早起き・あさ・し・ど・う運動を知っている児童生徒の割合	・食育、読書について、取組の浸透を図るため担当者会を行う。また、子どもや保護者への啓発をすすめるとともに啓発旗等の活用等により地域へ積極的に発信していく。 【令和5年度目標値】 ・各校からの早寝・早起き・あさ・し・ど・う運動に関する学校だより等による啓発実施回数(学期に1回) ・食育担当者会 年2回 ・図書館教育担当者会 年2回 ・小学校の健やかタイムプラン(10分間運動・体育の宿題・特別活動・環境整備・チャレンジランキングなど)の実践校数 12校	・食育担当者会は年2回開催、図書館教育担当者会も年2回開催した。食育、読書、運動について、各校の様子を話し合い、さらなる取組の浸透を図った。 ・早寝・早起き・あさ・し・ど・う運動に関する各校からの啓発を年に3回以上実施した。 ・小学生の体力向上策として各校がすこやかタイム(10分間運動)を実施した。(12校)	【事業概要】 早寝・早起き・あいさつ、食事、読書、運動の活動を学校・地域・家庭が連携して取り組み、基本的な生活習慣の定着を目指す。 【成果】 食育担当者会や図書館教育担当者会を年2回開催し、「食に関する指導全体計画」や「図書館教育全体計画」に基づいた各校での取組の推進と、取組を交流し学び合う機会となった。 【課題】 どのような啓発活動が、生活の見直し・向上につながるのか検証する。小学生の運動能力の向上や、小・中学生の読書活動の充実に向けて、有効な取組を検討する必要がある。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	58	お出かけ演奏会(No.7再掲)	市内各校・園所にプロの音楽家が出向き、安土桃山時代に伝わった音楽などを同時代の楽器と声楽で生演奏することにより、子どもに豊かな芸術体験と、地域の歴史文化を学ぶ機会を提供する。	文化振興課	実施小学校・園所数	【令和5年度の目標値】 ①10公演 ②「ふつう」以上＝勉強になった、やや勉強となったの回答率6割	①13校園所で15公演実施 ②やや勉強となった以上70.4%、ふつう以上89%の学習効果が得られた	【事業概要】 西洋音楽史を通したふるさと学習。16世紀に安土桃山時代に安土に渡来した楽器や音楽の歴史について、プロの演奏者による古楽器(声楽・フルート・オルガンのトリオ編成)演奏を通して、児童がふるさと学習できたり幼少期より本物の音楽に触れたりする機会を創出。 【成果】 市内小学校及び保育所や幼稚園、こども園からの希望日時に合わせて、13校園所15公演を実施。公立園所すべてで、公演実施することができた。また、今年度の小学校対象公演では、文化財担当者も随行し歴史学習の充実を図った効果で、「勉強になった」の回答率において過去最高の結果を得ることができた。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	59	キャリア教育推進事業(No.11再掲)	市内の子どもたちが、社会人、職業人として自立し、地域につながるキャリア教育・職業教育の充実と推進を図る。	学校教育課	中学生チャレンジウィークにおける体験活動の日数	・市内の中学校が教育委員会と情報共有しながら職場体験の受け入れ先を開拓し、各校5日間の体験活動ができるように進める。 【令和5年度の目標値】 職場体験 5日間	・市内全中学校で5日間実施した。 ・職場体験学習を楽しみにしている子どもが多く、前向きに取り組んでいた。 ・保護者や事業所は職場体験を良い学習の場であると感じていた。	【事業概要】 子どもたちが実際に地域の事業所に出向いて働くことを通して、働く人の思いに触れ、自分の生き方を考える機会とする。地域との連携を深め、地域で子どもを育てる気運を高める。 【成果】 あいさつや振る舞いなど基本的な事を身につけ、働くことの厳しさや喜び、労働に対する正しい認識を持つことができた。また、マナーやルールの必要性を身をもって理解することができた。日常にはない貴重な体験を通じ、仕事に対する興味や関心も広がり、より一層、将来の自分像を描きやすくなった。今後の進路学習や人生設計にも生きる活動となった。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和5年度の対応方針 【目標値】	令和5年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	60	学校支援地域本部事業 (No.16再掲)	地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制を確立する。また、地域全体で子どもを育てるための地域住民の意識向上と地域教育力を高める。	生涯学習課	支援ボランティア参加者数	【令和5年度の目標値】 ・支援ボランティア参加者数	支援ボランティア数のべ約5,000名	【事業概要】 ・5幼稚園、2子ども園、12小学校、4中学校(合計23校)へと市内全ての公立校園で事業実施している。 ・地域学校協働活動推進員の活動の充実や不安の解消を図るため意見交流会や情報交換会を行い、よりよい事業の進め方を追求している。 【成果】 ・地域学校協働活動推進員の配置により教職員と地域住民とのつながりが生まれ、学校と家庭、地域との連携の意識が高まっている。 ・本事業を長年継続していることで、地域での認知度が高まりボランティアに参加する人が増えている。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	61	人生伝承塾 (No.17再掲)	モノ作りの伝統や日本がこれまで培ってきた技術や精神などを持つ地域人材や企業、団体等が出前授業や見学受入等を通じて生き方・知恵や技能を児童・生徒に伝える。	生涯学習課	にこまるポケットの講師登録者数	・様々な講師の方を迎えての学習によって子ども達が学ぶことの楽しさを実感できるような授業づくりの支援を図る。 【令和5年度の目標値】 ・「にこまるポケット」新規登録者数:2名	「人生伝承塾」新規登録者数:3名	【事業概要】・伝統文化やキャリア教育等の11の視点で講師リストを作成し、子ども達が興味関心をもてる学びの機会を設ける。 【成果】・登録いただいた講師の方々が学校や地域に向向いて、各講座にて子どもの学びの場を設けることができた。 Googleドライブ庁内LANで閲覧可能にし、より閲覧しやすく活用しやすい環境づくりを行った。	1
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	62	学校支援メニューフェア (No.18再掲)	地域の人材・団体や企業の持つ出前授業や見学受入等の学校支援プログラムを学校に直接・間接的につなぐことで、技術や技能、精神を次世代に伝承するとともに社会全体で学校を支援する気運を醸成する。	生涯学習課	学校支援メニューフェア参加者数	にこまるポケットと統合し、事業廃止			